

根拠のある考察をすることができる児童を育む

授業づくり

教育実践高度化専攻 教科指導重点コース 理数・自然科学系（理科）

小林 遼香

本研究では、「結果から考察することができる児童」、「根拠をもつことによって、自分の意見に自信をもつことができる児童」の育成を目的とし、授業実践を行った。授業実践では、考察に必要な情報の獲得を目指した観察技能の向上、理科の考え方の1つである「比較」の活用、定型文の活用の3つを手立てとした。実践の結果、五感のイラストを提示し、結果として何を見ればよいのかを確認させたことによって、考察に必要な観察技能を向上することができた。また、実験の結果同士を比較したことで、共通点や差異点を見だし、それらを基にして考察の1つの要素である自分の考えをもつことができた。さらに、考察には「実験結果」と「結果を基にした自分の考え」の2つの要素が必要であることを理解できている様子や記述が見てとれた。以上のことから、結果から考察することができる児童を育むことができた。手立てを通して根拠をもたせることができたが、児童に自分の意見に自信をもたせるという点については課題が残った。